

1. 最近我が国では非行の低年齢化や自主性の欠如した子供の増加等の問題になっている。その原因として塾等による遊びの時間的制約や遊び友達への減少等社会的な時代の趨勢による子供の生活の変化や歪みが指摘されている。又、都市部での住環境や住宅形式の変化及び遊び場の減少等がそれに拍車をかけている。そこで本研究では子供の遊びの形態を明らかにすると共に、それを支配する要因を広く住環境的側面から検討し(その1)、最終的には遊びの満足度を指標にこれらの要因を数量化してとらえ(その2)て行きたい。

2. 調査の概要 一般住宅地域、集合住宅地域(超高層)、工住混合地域、農村地域の4地域を調べ、各区域内の小学校の2年と5年生各100人を対象に計6小中学校に依頼し、アンケート記入方式で調査した。又、5年生については市販のY-G性格検査を同時に実施した。

3. 結果 一般住宅地域では塾に行っている率が高いが、遊びの種類も豊富でよく遊びよく遊ぶという傾向がみられた。集合住宅地域では面白い遊び場があると答えているが、非外遊びをしない子や、めんどうだと思っている子が半数以上もあつた。工住混合地域では非外遊び時間も満足度も最低であつた。これは自然に接した遊び場の少く、上車の危険や遊びを制約されている場所が多いためであらう。農村地域では、自然に恵まれ、塾にも行かないためか、たのびなかりがあり、スポール遊びが出来ない不満があつたが、満足度は最高であつた。住宅形式は、1戸建、文化アパートとテラスハウス、集合住宅1~4階、集合住宅5階以上に分類して考察した。その結果、子供室の有無、遊び場所、外出時のめんどうさ、外出回数、1回当りの外出時間、非外遊びの時間等で差異が認められた。又、性格検査では遊びの満足度や地域差、住宅形式、子供部屋の有無等と性格との関連が見いだされた。